

④農業委員会からのお知らせ

【**農業者年金**】この制度は、平成14年から任意加入や積み立て方式に見直され、保険料も加入者が決めることができます。保険料拠出については、国庫助成があるなど政策支援がございますので、まだ、加入していない農業者の方におかれましては、営農計画と併せ将来を見据えた農業者年金についても、ご検討してみたいかがでしょうか。

お問い合わせは、**檜葉町役場（農業委員会）**まで

TEL: 0 2 4 0 - 2 3 - 6 1 0 4



豊かな者後に備えて
農業者年金
に加入しましょう！

① 政策支援を受けるとこんなにお得！

② 政策支援を受けない場合でも、納付された保険料は、農業者年金基金が安全性と一定の利回りの確保を旨として運用します。

③ 所得の倍以上に優遇に課税し、60歳未満の国民年金費1号被保険者（国民年金の保険料納付免除者は除く）であれば、誰でも加入できます。

④ 保険料は月額2万円～6万7千円の間で自由に決めることができます。

⑤ 税制面で大きな優遇措置があります。

農林水産省 独立行政法人農業者年金基金

【**農地の下限面積**】耕作のために農地の所有権等の権利を取得しようとする場合は、農地法第3条（農地の売買、贈与、賃借）の許可が必要です。その要件のひとつには、「**経営農地の下限面積**」が定められており、法律で50アールと定められています。平成21年の農地法改正により、市町村の実情に応じて農業委員会の判断で50アール以下の面積を定めることができるようになり、檜葉町農業委員会は、町内全域の別段面積は10aとし、宅地等に付随した農地については0.01a（1㎡）と設定したところ。これによって、新規就農者が農地を取得しやすくなり、施設園芸の促進や兼業農家が営農しやすくなることが期待されます。



設定区域	別段面積	省令適用条項
檜葉町全域	10アール（1000㎡）	農地法施行規則17条第2項
檜葉町全域の宅地に付随した農地	0.01アール（1㎡）	農地法施行規則17条第2項

【檜葉農業振興地域整備計画の総合見直し】

農用地区域除外（農振除外）申請の受付については、年2回行ってきたところですが、今回の総合見直しに伴い新規受付を一定期間休止します。

※一時休止前の最終受付：令和3年7月末まで

※受付一時休止期間：令和3年8月から令和5年3月末の見込み

発行日 令和3年7月
発行 福島県檜葉町
編集 檜葉町産業振興課
〒979-0696

福島県双葉郡檜葉町大字北田字鐘突堂5-6
TEL: 0240-23-6104 FAX: 0240-25-1234

チャレンジ農業！次のステージへ！
～雑草対策で収量と品質向上を～

チャレンジ農業！次のステージへ！

営農情報ならは10

檜葉町産業振興課（令和3年7月号）

- ① 米寿を迎えた今年もコメ作りにチャレンジ！
- ② 自然と共生する有機農業を実践中！
- ③ 雑草に挑む！～収量と品質、景観の向上～
- ④ 農業委員会からのお知らせ



①米寿を迎えた今年もコメ作りにチャレンジ！

井出地区の草野昌男（まさお）さんは、御年88歳。受託分を含め5ha超の水田で米作りを行っています。今年も耕起や代かき作業等を担当し、現在は、日常的な水管理等を行っています。息子の邦応（くにお）さんは、肥料散布や草刈り等を中心的に担っており、親子力を合わせて地域の田園風景を維持しています。



今年も5ha超の水田で代掻き作業！

邦応さんは「営農を継続するためには、労働力確保が必要で他産業との労働力を調整できるような仕組みがあったら理想的です。」とおっしゃっていました。

②自然と共生する有機農業を実践中！

松館（しょうかん）地区の松本広行さんは、自然と共生する有機農業に取り組んでおり、化学肥料や農薬などの化学物質に頼らない安全で安心な「お米づくり」を行っています。通常、水田雑草の対策は、農薬散布が主流となっていますが広行さんらのグループは、



株間も除草できる構造に興味津々！

水田除草機械の実演会に参加し、有機栽培に挑戦する仲間とともに機械の操作方法等について理解を深めました。

地区的にも年々、有機農業の取組みが拡大してきている状況等もあり、きれいな水と空気、里山を次世代に引き継ぐことができるよう仲間とともに継続的に取り組んでいます。

③雑草に挑む！～収量と品質、景観の向上～

雑草が農地に与える影響は、生育が旺盛なため、農作物の生育を阻害することが多々あります。雑草は、農作物以上に養分や水分を吸ってしまうこともあり、雑草が生い茂ることで農作物に日が当たらなくなる場合や病害虫等の温床になるほか、収量や品質の低下で経済的な影響を引き起こすことにもなり得るため、定期的に管理し対策をしていくことが重要です。

利活用されている農地以外の農地の雑草についても適正な管理を行うことで、病害虫の発生等を抑制する効果も期待されます。定期的に雑草管理を行い橋葉町の景観と環境を維持していきましょう！



農薬取締法

農薬の登録制度を設けることにより、農薬登録されていないものを製造・販売・使用できないことや農薬使用者が守るべき使用基準を規定しています。

※農薬散布・保管時の注意点！

- ・使用者自身の安全対策として、農薬の製品ラベルに従った保護具を着用しましょう。
- ・周辺の住民と環境に配慮し、農薬使用前に事前周知し、農薬が飛散しないように注意しましょう。
- ・鍵のかかる保管庫で管理を徹底しましょう。



※農薬使用の際は適正な希釈倍率・倍数と正しい用法で使いましょう。

3つのポイントは、

- ①作物を特定する。
 - ②病害虫を特定する。
 - ③農薬の注意書きを熟読する。
- ことが重要です。

農薬散布を適正に行うことと、農薬の使用状況や作業した内容

をしっかりと記録し大切に保管しておくようにしましょう。

タンク容量	10倍	25倍	50倍	100倍	300倍	400倍	500倍
500ml	50ml 50g	20ml 20g	10ml 10g	5ml 5g	1.65ml 1.65g	1.25ml 1.25g	1ml 1g
1L	100ml 100g	40ml 40g	20ml 20g	10ml 10g	3.3ml 3.3g	2.5ml 2.5g	2ml 2g
5L	500ml 500g	200ml 200g	100ml 100g	50ml 50g	16.7ml 16.7g	12.5ml 12.5g	10ml 10g
10L	1L 1Kg	400ml 400g	200ml 200g	100ml 100g	33.3ml 33.3g	25ml 25g	20ml 20g
18L	1.8L 1.8Kg	720ml 720g	360ml 360g	180ml 180g	60ml 60g	45ml 45g	36ml 36g
20L	2L 2Kg	800ml 800g	400ml 400g	200ml 200g	66.7ml 66.7g	50ml 50g	40ml 40g
100L	10L 10Kg	4L 4Kg	2L 2Kg	1L 1Kg	333.3ml 333.3g	250ml 250g	200ml 200g

水田

水稻の除草剤は、有効成分や使用期間等の違いによって多数の製品があることから水田の状況（雑草の種類・保水性・土質等）に合わせて、選択する必要があります。正しく使うことで除草剤の能力を十分に発揮させることができます。

【ほ場の準備】

丁寧な耕起と代かきを行い均平化し、適正な水深を保つことが大切です。

【適正散布】

雑草の発生状況をよく観察し、使用適期を外さないことが重要です。

【適正な植付け】

浮き苗や浅植は薬害発生の可能性が高まることから植付け深さにも配慮が必要です。

【水管理の徹底】

除草剤の処理層がしっかりとつくられるまでは水深を保つようにしましょう。

畑地

雑草には一年草と多年草、在来種と外来種など様々な種類があります。農地内の対策はもちろんですが農地周辺の雑草管理を徹底することが最大の予防策とも言えます。畑と畑の周辺の雑草管理を徹底しましょう！

【基本の3つの組合せ】

- 1) 雑草を刈り取る。根を抜き取る。
 - 2) 除草剤で枯らす。生長を阻害する。
 - 3) マルチや防草シート、敷きワラ等
- ※作目等が分かれば、より省力的に管理できる可能性もありますので、県普及所や農研機構等へお問い合わせ願います。



松本町長の甘藷畑 (R3年5月撮影)

畦畔・法面

畦畔や法面を省力的に管理する技術はいくつかありますがポイントになるのは畦畔の形状や種類と現在の雑草の状態（植生）です。

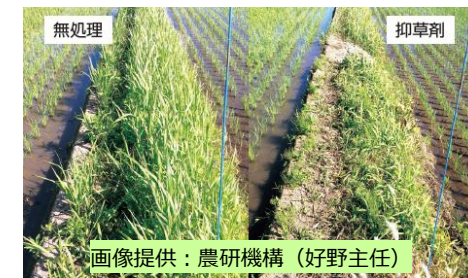
- ①崩れても畔塗等で修復できる畦畔は非選択性除草剤による管理が効果的。
- ②面積が大きく傾斜が急な畦畔は、何らかの方法で地面を覆うのも手法のひとつ。
- ③多年生の雑草が多い畦畔は枯らさずに、伸びを抑える抑草剤も利用が可能。

<畦畔管理技術の省力性>

防草シートは、導入時に長時間の作業を必要とするものの維持管理のための作業は、ほとんど不要なため、刈払い作業よりも作業時間は短くなります。除草剤・抑草剤利用技術でも作業時間が短く作業の負荷も小さくなります。防草シートは導入コストがかさみますが、年平均では刈払いとの差は小さくなります。各技術の特徴や雑草抑制効果、適用できる条件などの詳細については、農研機構HPをご参照ください。

※耕作中の農地畦畔・法面で除草剤を使用する際は、農薬使用基準に従い、周辺作物への飛散に注意してください。

http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th_laboratory/tarc/2017/tarc17_s18.html



画像提供：農研機構（好野主任）

